

42

921

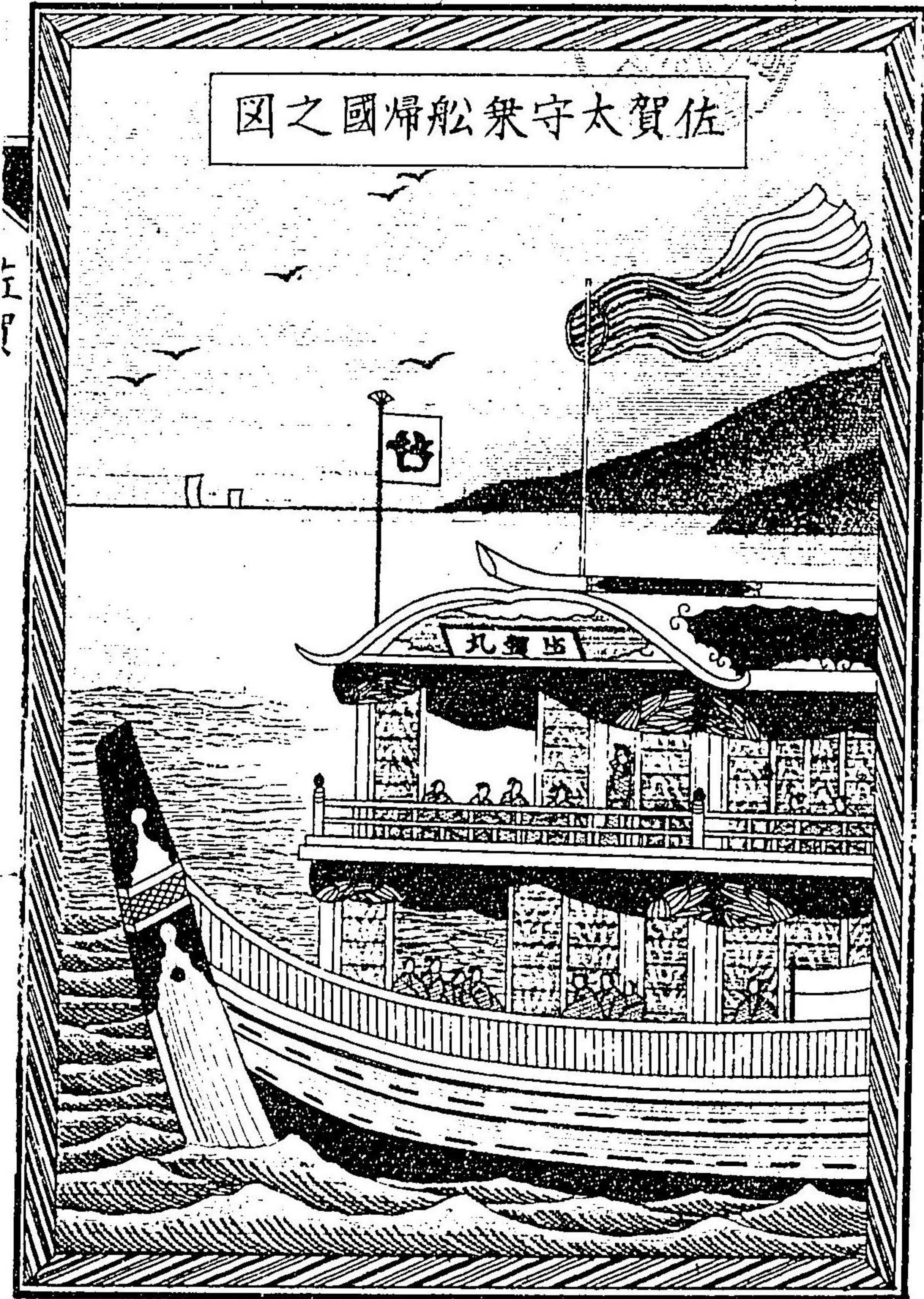
會入

佐賀怪猫傳全



W 3742/23

佐賀太守衆船歸國之圖



銅刻  
實說  
双紙

高橋





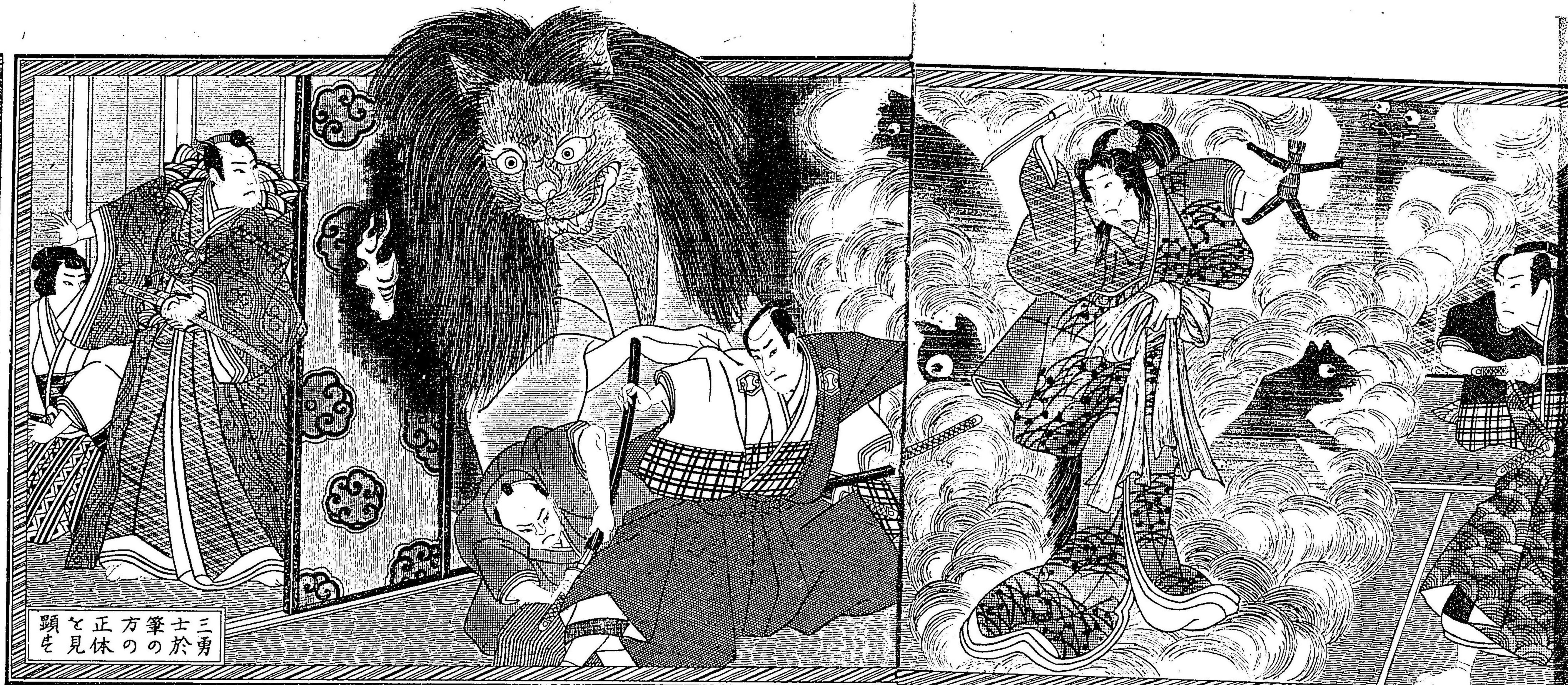
佐々木

大守

左右太

伊藤左右大宿  
直して變化  
と見頭す





三士筆方正と頭  
勇於のの体見を





又七郎

大守

又七郎は  
 大守の御  
 影法師の  
 御影法師  
 影法師の  
 御影法師  
 影法師の  
 御影法師

又七郎は  
 大守の御  
 影法師の  
 御影法師



左翼

又七郎は  
 大守の御  
 影法師の  
 御影法師  
 影法師の  
 御影法師  
 影法師の  
 御影法師

大守は心我  
 守は心我  
 守は心我  
 守は心我







圍切付三  
家根一飛  
上  
小  
半之照  
怪物の  
跡追々々  
不我家入る  
中直立入り  
密は内々  
足れへ床下  
白骨も見出

半之照



りも小亦の不審  
れ又母の部屋と外  
より伺ふ母鏡  
額の疵(我手)  
まてぬりつ居け  
に顔猫る半  
之照大ひい  
うり姿母  
不目せよ是怪物  
不相違色と二刀引抜き切  
り付れば怪物のうら  
あちとと遊廻りま  
強爪と共空虚と

猫怪



入る

とどろき附添の

関傳八郎大ひ小怒

り不狩ぞ申と

きめつ丹丸が三

平少しも恐れ

比長持お生物が

這入っているけぬけ

日つらましく

関傳八郎

九

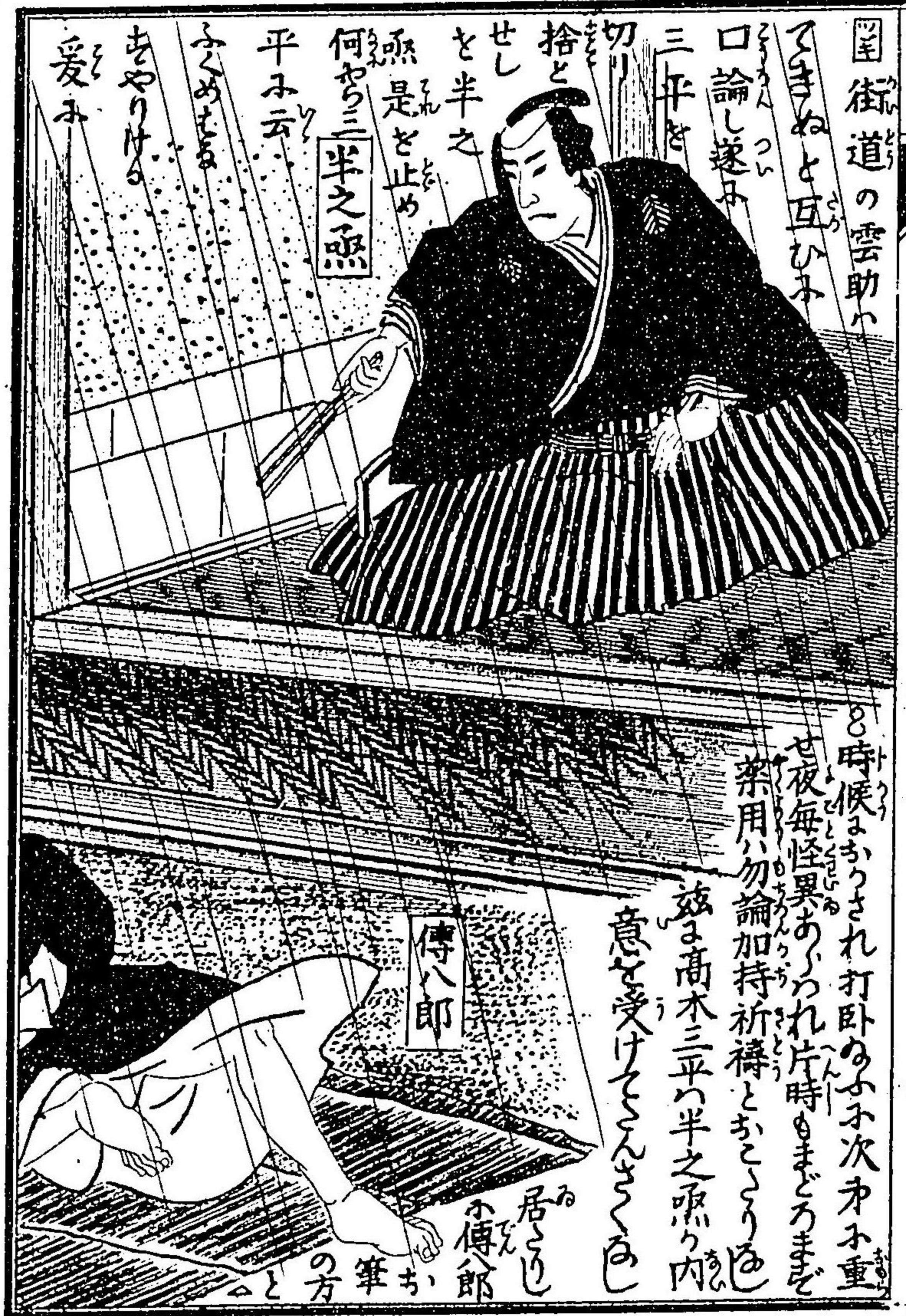


本陣

半文

三平

佐賀



佐賀

目街道の雲助

くまねと互ひみ

口論し遂に

三平

切

捨て

せし

と半之

照是を止め

何ち三平之照

平云

ふん

あがりけ

愛み

時候はさうされ打臥るふ次才不重  
廿夜毎怪異のつれ片時自まごりまを  
茶用ハ勿論加持祈禱とおこころい  
茲は高木三平の半之照の内  
意を受けてとんとく

傳八郎

居る  
小傳八郎

の方



佐賀の  
大守

高木三郎

合せ主家を

しる三平傳

八郎を半之

照方へ引連

来り礼け

白状

正四

五

十



佐賀

不性心也  
那山根天孫  
神



伊東長次

左

十





飛のりいづくへ逃去たり  
 之より左右太半は不動尊へ  
 三七日の荒行せしむる不思議  
 重夢あつて城の  
 未申おきも噴山  
 お隠れしもの  
 此草三人の男  
 遂に怪備  
 退治し大守  
 三人と重  
 目出度  
 なるもの

明治廿三年  
 五月一日印刷  
 全五頁  
 日本橋馬喰町三丁目四番地  
 印刷者 網島 龜吉  
 発行者

